

明けましておめでとうございます

2012年 壬辰

泣いても笑っても2012年は明けました。いろいろに取沙汰されてきた問題の2012年ですが、どういうことが起きてくるのでしょうかね。

壬申の乱というのがありましたが、壬（みずのえ）の年は荒れることが多いと四柱推命学の占星家から聞きました。それだけでなく何か大事件が起きるらしいとは様々な預言書が書いています。何しろマヤ歴によればグレート・ソーラーサイクルの終わる年だそうですから。地球の回転が一回止まってしまい、磁場が消えてゼロになるとも言われています。それによってカルマもチャラになるとも言われています。磁場が消えたら人間は生きられるのかという疑問もあります。多くの人が死ぬだろうとも言われています。でも人間は事件の起きる前は全く普通に生活しています。たとえ一秒前でも次の瞬間に起きることは予測できないのが普通の人たちの常です。

「だって、じゃあどうしていれば良いわけ？」と言いたいのでは？ 昨年3月11日の事を思い出せば誰もあんなことが起きるとは予測していなかったわけです。

では、今どうしていたら良いのか？ これについて昨年11月に気づいたことがあります。

実は2011年11月11日という11の並びが続く特別な日にあろうことかグアムにのんびり旅行に行ってしまったのです。同行の人と私と双方の都合でどうしてもその日になってしまったのです。斎戒沐浴して断食して瞑想して祈っていたら良いのに、と頭をよぎった思いを振り切って出かけたわけです。ちなみに人間は（つまり私は）強制されない限りは嫌なことはしません。でもって、行ってしまったわけです。

熱帯性の短時間で止む雨が多いという所ではたぶん虹が見えるのではないかと、虹好きの私の期待、海に沈む夕日も見たいという期待がありましたが、着いて二日間は虹もなし、夕方は雨で落日も見えないという状態となりました。

「これはきっと私の心がけが悪くて叱られているのだ」と久しぶりに「私は悪い子だ」という思いに責められました。昔はしょっちゅうこういう思いで生き

ていて、様々な病気にかかり、何回か死にかけましたが、その時代を思い出しました。小田野先生と太母さんに「ごめんなさい」をしました。でも罪悪感という、抜きがたい「マインドのわな」に関しては色々と考察をする機会を得ました。「罪悪感は諸悪の根源」と何度も確信と確認をしました。自分を許せない人は他者も許せないものだとは以前から思っていたことです。これもまた諸悪の根源、悲しみと苦しみの根源です。

ところが、ところがです。最後の日の夕方にすばらしい落日と、空に「白馬」あるいは「昇り竜」の雲が出たのです。そして翌朝、出た〜っ、虹が出まくりました。

まずダブルの虹がでて、次に巨大な半円の虹、その後もいくつか出て、最後に低い半円の虹が出ました。虹のオンパレードは一時間弱続いたと思われます。



ダブルの虹 撮影：安部 明



色が見えにくいのでコントラストを強くした半円の虹
肉眼では良く見えてましたが、デジカメだと鮮明さが少し欠けます。

撮影：安部 明

「太母さんのメッセージだからよく聞いてね」と撮影者の安部さんに言われました。

「楽しんでおればええよ。楽しくない人が多すぎる。困ったもんじゃ」

まずそういうメッセージが頭の中に響きました。罪悪感は払拭され、楽しさと喜びに満たされました。他にもメッセージはありましたが、ここでは触れません。

さて、何が言いたいかというと、人間はもうすでに嫌というほど苦しみ、嘆き、善人、悪人、道化とあらゆる役を演じてきたのです。もうすでに帳尻はあ

っています。罪悪感は地球の周囲にヘドロのような海を作っているような感じが以前からしていました。そのヘドロの海に瞑想中2、3回首まで漬かった経験もしました。匂いもひどかったです。悪臭と汚濁の中でもがくも良し、虹の輝く光の中で何も怖いものがなく、心配もしないで過ごすも良し、どうしてしようと2012年は来てしまいました。どうしてしようと事件が起きるのを予測することも止めることもできません。どうか自分を許してあげてください。そうすれば自然に他者も許せるという法則があることを分かってください。今年はそういう年になるというワクワクするような明るく楽しいイメージを持ってください。

菊池静流より愛をこめて世界中の兄弟姉妹へ